

# 【中学校・1年・国語・「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ】

## 育成を目指す資質・能力

C2（協働での意見整理）

C-エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。

## ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 表計算ソフト

文章の修正が何度でも可能であることを生かし、小集団毎に協働しながら考えを深めることができる。

### 学習の流れ

一斉指導で本文の内容等を読解する。

グループで分担を決め、個人で記事をまとめる。

個人でまとめた記事をグループでまとめながら、新聞を作成する。

新聞を全体で共有し、自分の学びを振り返る。

### 事例の概要

本実践は、説明的な文章を読み、考えたことを文章にまとめることを言語活動に設定した事例である。

学習のまとめとして作成する新聞を共同編集できるように表計算ソフトで作成した。新聞の内容は「本文の内容のまとめ」「文章の論の展開の特徴」「説得力のある文章を書くために生かせること」の3つとした。

- ・グループで記事の分担を決め、前時までの学習を通して考えた内容を個人で表計算ソフトにまとめる。
  - ・個人でまとめた記事を表計算ソフトにコピーして、グループの仲間と対話しながら、新聞を作成する。
    - \*他グループの新聞を閲覧し、参考にしてもよいこととする。
- ◎ICT端末上で新聞を作成することで、対話しながら加除修正したい場合、すぐに修正することができ、記述時間を短縮し、対話の内容を充実させることができた。（生徒の書くことへの苦手意識の軽減）
- ◎表計算ソフトの閲覧が容易であるため、他のグループの作業を参考にでき、内容を充実させることができた。

# 【中学校・1年・国語・「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ】

## 【事例におけるICT活用の場面】



## 【事例におけるICT活用の場面】



指導者が作成した新聞のフォーマットに、生徒は文書作成ソフトで原稿を書き、コピー&ペーストで作成した。

## ICT活用のポイント

「読むこと」の学習において、読み取ったことや考えたことを文章でまとめる場面を設定することがある。

そのような際に、手書きによる記述であると、生徒が加除修正したいと思っても、時間がかかったり、作業量が増えたりと負担を感じることも少なくない。

本実践では、生徒が負担感なく活動に取り組めるように、ICT端末上で表計算ソフトの共同編集機能を活用しグループ（3～4名）ごとに新聞を作成した。

生徒は、グループで意見交流をしながら作業を進めたり、作成しながら他グループの作業を閲覧し、よりよいと思うものを取り入れようとしていた。原稿の加除修正が手書き入力よりも容易にでき、粘り強く表現を練り直すことができた。

また、ICT端末を活用することで、容易に情報を共有することが可能となる。プロジェクターを活用し発表する場面で視覚的資料としたり、学習を振り返る場面で自分達のグループが作成した新聞だけでなく、他グループの作成した新聞を見ながら、自身の考えを深めることにつながっていた。

## ICT活用事例 C2 (協働での意見整理)

中学校1年・国語科

「驚きの発見」を伝えよう～文章の展開や表現の効果について考える

使用機器：ICT端末 使用したソフト：表計算ソフト

### 〈ICT活用のポイント〉

- ①自分の考えを表計算ソフトに記述し、協働で編集することで、対話しながら加除修正したい場合、すぐに修正することができる。また、記述時間を短縮し、対話の内容を充実させることができる。
- ②表現方法を話し合いながら制作することにより、子供たちが豊かな表現力を身に付けることができる。

### 1 単元の目標

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。  
[知識及び技能] (2)ア
- (2) 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。  
[思考力、判断力、表現力等] C(1)ア
- (3) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。  
[思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

### 2 教材名

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 「国語1」(光村図書)

### 3 指導の内容と言語活動、教材のかかわり

#### (1) 言語活動設定の意図

目的意識	文章の構成や展開、表現の効果について考えるために
相手意識	クラスの仲間に対して
場面状況意識	説明や記録などの文章を読む場面で
方法意識	理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動を通して
評価意識	文章の構成や展開、展開の効果について根拠を明確にして考えることができたか

#### (2) 教材の特徴

本教材は仮説検証型の説明的な文章である。本文は「前提となる知識」「研究のきっかけと仮説」「仮説の検証1」「仮説の検証2」「結論」の5つの部分で構成されている。日々の観察の中から仮説を立て、その仮説を検証するために2つの実験を行う。その結果を基に、仮説の妥当性を主張するという論の展開が、筆者の主張に説得力を与えている。仮説、主張は意見に当たり、実験による仮説の検証は事実・根拠に当たる。文章を読み取る際には、意見を読み取る箇所なのか、事実を読み取る箇所な

のかを判断する必要がある。「前提となる知識」「研究のきっかけ」という事実から「仮説」という意見が生まれ、それを実験結果という事実によって「検証」し、「結論」という意見に結びつける文章の展開に着目させたい。また、内容の客観性や説得力をもたらすために、図表が果たしている役割も大きい。イラストは、何を指し示すために用いられたものなのか、必要な情報を読み取ることが求められる。グラフは、その数値の変化を視覚的に捉えるだけでなく、図表の情報や数値を比較して考えることが求められる。図表を読み取るだけでなく、文章と図表を結び付けることによって、簡潔に分かりやすく、説得力をもたせることができる点に着目させ、その効果を考えさせたい。

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	① 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) ② 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	① 粘り強く文章の構成や展開、表現の効果について考えようとしている。

\*本単元では、[思考力、判断力、表現力等] C(1)エを特に重点的に指導し評価する。

#### 5 指導と評価の計画 (C「読むこと」の6時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいを把握し、学習活動の概要をつかむ。  ○『言葉』をもつ鳥、シジウカラ」を通読する。  ○知らない単語について辞書で調べる。	・学習のねらいを具体的に示し、学習の見通しをもたせる。  ・段落番号を本文に記入させる。	
2 ・ 3	○文章の構成と内容を捉える。  本文を役割ごとに5つの部分に分ける。  ○事実と意見を読み解く。 筆者が立てた仮説を本文から見つける。またその仮説は何を基にして立てられたものなのかを考える。  ○仮説の検証I・IIについて5つの観点でまとめる。	・本文を「ア 前提となる知識」「イ 研究のきっかけと仮説」「ウ 仮説の検証I」「エ 仮説の検証II」「オ 結論」の役割で段落を分けさせる。  ・文章から筆者が立てた仮説を見付けさせる。その仮説が何を基に立てられたのかを考えさせ、仮説という意見は観察という事実を基に立てられたものと気付かせる。意見との関係に気付かせる。文章全体を通して意見と事実に着眼することを意識させる。  ・段落ごとにキーセンテンスを見つけ、線を引かせる。 ・検証I・IIを「検証の目的」「検証方法」「結果」「考察・解釈」「問題点」の5つの観点でまとめさせる。それぞれの	[知識・技能]① ノート等への記述  [知識・技能]① ノート等への記述  [思考・判断・表現]① ノート等への記述

		<p>段落がそれぞれの観点に対応していることを確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検証Ⅱの問題点がないことから仮説が証明されたことに気付かせる。</li> </ul>	
4・5	<p>○新聞の作成の仕方を知る。 1人1台端末内の表計算ソフトの操作方法を学ぶ。</p> <p>○グループで新聞を作成する。 メイン、サブ1、サブ2に載せる内容をグループで話し合う。</p> <p>○新聞を作成する。 メイン、サブ1、サブ2の記事を打ち込む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の振り返りを新聞にまとめることを説明する。</li> <li>・「内容のまとめ」「文章の論の展開の特徴」「自分が説得力のある文章を書くために生かせること」の3つを記事内容とすることを説明する。</li> <li>・3つの観点をどこに配置するのか考えさせる。</li> <li>・「記事入力シート」に記事を書かせる。</li> <li>・「紙面シート」にそれぞれの記事のタイトル、見出し、図表を入力させる。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現]② 記事入力シート・紙面シート</p>
6	<p>○発表原稿を作成し、発表の練習をする。</p> <p>○作成した新聞を発表する。 グループで発表しあう。</p> <p>○新聞作成、発表を通して考えたことを振り返る。</p> <p>○全体で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこにどの記事を載せたのか、どのようにまとめたのか、なぜそこに書いたのかをまとめさせる。</li> <li>・発表原稿を基に発表させる。</li> <li>・他グループの発表を聞き、相違点をメモさせる。</li> <li>・説得力をもたせるための筆者の工夫、説得力のある文章を書くために生かしてみたいこと、という観点で振り返らせる。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現]② ワークシート</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]① ワークシート</p>

## 6 ICTの効果的な活用について

本実践では、手書きによる新聞作成ではなく、1人1台端末上での新聞作成(右の写真参照)を行った。表計算ソフトの共同作業を生かし3~4人のグループを作り、グループごとに新聞を作成した。グループで意見交流をしながら、一人一人が作業することができた。また、作成しながら、他グループの作業を閲覧することができ、よりよいと思うものを取り入れようとする姿を見ることができた。文字を打ち込むことで、書き直すという行為が手書き入力よりも容易にでき、粘り強く表現を練り直す姿を見ることができた。

新聞作成後はプロジェクターを活用し、どのような新聞を作成したのかの発表会を行った。その後、学習の振り返りをする際にも1人1台端末を用いて自身の作成した新聞だけでなく、他グループの作成した新聞を見ながら、考えを深めることができていた。

The image shows a digital newspaper interface on a tablet. At the top, there's a title "鳥が言葉を使う!?" (Birds use words!). Below it is a photo of a blue bird. The main content area contains several columns of text, likely an article. To the right, there's a sidebar titled "シジュウカラとは" (What is a Blue Jay?). Below the main text, there's a section titled "論の特徴" (Features of the argument) with a table. Another sidebar on the right is titled "説得力のある文章" (Persuasive writing). The interface is clean and organized, typical of a digital news application.

